



葉いもちの発生が平年より多い状況です。 防除を徹底しましょう。

[発表の内容]

作物名 : 水稻
病虫害名 : イネいもち病
発生量 : 多い
発生地域 : 県下全域

[発表の根拠]

- ① 7月上旬現在、病虫害防除所巡回調査圃場の葉いもちの発病度¹⁾および発生地点率は、ともに平年より高い(表1)。
- ② 7月上旬現在、県予察圃(水戸市内、無防除)の葉いもちの発病度(本年値19.5、平年値6.8)は平年よりやや高い～高い。
- ③ 葉いもちの感染好適日(BLASTAM²⁾による)は、6月第4半旬および7月第1、2半旬に広範囲で認められている(表2)。
- ④ 気象予報によると、向こう1か月の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想され、発生を助長する条件である。
 - 1) 発病度:株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
 - 2) BLASTAM:アメダスデータ4要素(気温、降水量、風速、日照)から、その日が葉いもちの感染に好適であったかを判定するプログラム。葉いもちの発病は、感染好適条件が出現した日から7～10日後に始まると考えられる。

[防除対策]

- ① いもち病が発生しやすい水田(育苗箱施用剤を使用していない水田、日当たりや風通しの悪い水田等)を中心に見て回り、葉いもちの発生を認めたら、上位葉への進展を抑えるため、直ちに防除を行う。

例年、梅雨明けまではいもち病の発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも注意する。
- ② いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは、出穂直後から出穂後14日位までである。この期間に降雨が続く場合は、穂いもちの発生に注意が必要である。
- ③ 穂いもち防除は予防散布が原則である。穂いもちを対象とした液剤の散布適期は、穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し、上位葉に病斑が進展している水田では、穂いもちを対象とした防除を徹底する。
- ④ 防除薬剤は表3を参考とする。また、殺菌剤を複数回使用する場合、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤を選択する。

表1 病害虫防除所巡回調査圃場における葉いもちの発生状況（令和3年7月上旬調査）

地域	調査地点数	発病度 ¹⁾			発生地点率（%）		
		本年値	平年値 ²⁾	順位 ³⁾	本年	平年	順位
県北	8	1.4	1.9	6	50	23	2
県央	15	3.9	2.5	3-4	47	37	4-5
鹿行	6	2.5	0.9	2	67	18	1
県南	19	5.6	1.3	1	74	23	1
県西	9	5.3	0.8	1	89	18	1
全県	57	4.2	1.6	1	65	25	1

1) 株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

2) 平成23年～令和2年の10年間の平均値

3) 本年を含む過去11年間に於ける本年値の順位。

表2 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件等の出現状況（6月19日～7月8日）

	アメダス地点	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8
県北	北茨城							○								●		○		●	
	大子	●										●	●	●	●	●		●		●	
	日立	●	○										●					●		●	
	常陸大宮	●																●		●	
県央	水戸	●														○		●			
	笠間	●						○					●					●			
鹿行	鉾田	●	●										○		●			●			●
	鹿嶋	●	●								●				●		●	●			●
県南	土浦	●										●			●		●	●			●
	龍ヶ崎	●													●			●			
	つくば	●	●	●									●		●		●	●			●
県西	下館																	●			
	下妻																	●			●
	古河	●						●				●						●			●

●：感染好適条件出現日

○：準感染好適条件出現日

表3 水稻のいもち病防除に本田で使用できる主な薬剤

（令和3年7月1日現在）

薬剤名	使用時期	有効成分の種類	FRACコード
アミスターエイト	収穫14日前まで	アゾキシストロピン	11
トライフロアブル	収穫14日前まで	テブフロキン	U16
ノンプラスフロアブル	収穫7日前まで	トリシクラゾール	16.1
		フェリムゾン	U14
ブラシンフロアブル	収穫7日前まで	フェリムゾン	U14
		フサライド	16.1

注）農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。

（注意事項）

BLASTAMは、特定地点の発生を予測するものではなく、広域にいもち病が感染する時期を推定するシステムであり、最寄りのアメダス地点だけでなく、周辺のアメダス地点の出現状況も併せて判断する。また、圃場の条件（風通し、日当たり等）、栽培条件（窒素過多等）、防除体系などは考慮されていないため、最寄りのアメダス地点で感染好適条件が出現していなくても、圃場によっては感染に好適な条件になっていることもある。あくまで広域的な感染好適条件出現の目安とし、圃場毎の条件等にあわせて発生に注意をする。